

お客様各位

■ □ = = = = =

□

株式会社 京浜予防医学研究所

■ □ KMLメールニュース □ ■ ◆ ◆ VOL. 45 ◆ ◆

□

= = = = = □ ■

□ ■

株式会社 京浜予防医学研究所 よりお知らせ致します！

2012年 9月 24日発行

□ ■

<http://www.kml-net.co.jp/>

KMLメールニュースVOL. 45をお送り致します。
お忙しい事とは存じますが御一読いただきまして、先生方の
一助として頂ければ幸いです。

☆☆ トピックス ☆☆

- 【1】 マラセチアをご存知ですか？
- 【2】 感染症トピックス：9/24～9/30は結核予防週間です
- 【3】 検査項目情報：シスタチンC
- 【4】 弊社ホームページ トピックスページについて

1] マラセチアをご存知ですか？

ーアトピー性皮膚炎患者様において高率に検出される真菌ですー

【マラセチアって何？】

ヒトおよび動物の皮膚常在菌（成人の80%が保有）であり、癬風、マラセチア毛包炎の起因菌です。脂漏性湿疹（皮膚炎）、アトピー性皮膚炎との関連が報告されています。※1
マラセチア（属）の試薬には抗原性の異なる3種類の真菌からの抽出液を混合しています。それぞれの学名は
Malassezia sympodialis
Malassezia restricta
Malassezia globosa
で、Malasseziaは属名をあらわします。

【アトピー性皮膚炎における陽性率】

頭頸部の症状が重篤なアトピー性皮膚炎の例で、マラセチアに対する特異的IgEが検出されています。また、難治性の患者さんに抗真菌薬を投与すると軽快することなどから、アトピー性皮膚炎の増悪因子と考えられています。また、「成人アトピー性皮膚炎における感作アレルゲンの全国調査」※2 では室内塵、スギ、ヤケヒョウヒダニに次いで高い陽性率であることが報告されています。

● 成人アトピー性皮膚炎における感作アレルゲンの全国調査

ハウスダスト1	: 87.1%
スギ	: 86.5%
ヤケヒョウヒダニ	: 86.3%
☆マラセチア	: 82.4%
ピティロスポリウム	: 78.0%
カンジダ	: 77.7%
ガ	: 75.0%
イヌ皮膚	: 72.0%
ネコ皮膚	: 66.5%

【ピティロスポリウムとの違い】

マラセチア属真菌の分類は数度にわたる変遷がありました。ピティロスポリウムの原料は以前はPityrosporum orbiculareに分類されていましたが、現在の分類では上述のうちの1つのMalassezia sympodialisです。よって、抗原性の違う2つの菌種の加わったマラセチア（属）はピティロスポリウムに比べ、特異的IgEの検出能が高くなると言えます。

【アトピー性皮膚炎患者様から検出される他の真菌類】

他には黄色ブドウ球菌やカンジダなどがあります。黄色ブドウ球菌については、菌体成分よりも、黄色ブドウ球菌が産生する毒素がやはりアトピー性皮膚炎の増悪因子になると言われており、中でも毒素AおよびBを産生する菌株がアトピー性皮膚炎の病巣から多く検出されるという報告があります。

参考文献

※1 Zargari A et al: Allergy 2003;58:306

※2 池澤善朗他：アレルギー・免疫 2005;12(12):114-122

結核は決して過去の病気ではありません。特にタバコを吸われる本数の多い方、糖尿病を患っている方、血友病を患っている方、胃を切除されている方、人工透析を受けている方、疫抑制剤の治療薬を投与されている方は結核を発病するリスクが高まります。咳や倦怠感が長く続き、もしかしてと思ったら早めに検査されることをお勧めします。

主な結核菌の検査は下記をご参照ください。

検査項目 : 塗抹検査 (蛍光法直接塗抹法)
 検査材料 : 喀痰、他
 容器番号 : 34又は各材料別専用容器
 保存方法 : 冷蔵保存
 検査実施料 : 50点
 検査判断料 : 150点 (微生物学的検査)
 所要日数 : 2～3日
 基準値 : (－)

検査項目 : 塗抹検査 (チールネルゼン法)
 検査材料 : 喀痰、他
 容器番号 : 34又は各材料別専用容器
 保存方法 : 冷蔵保存
 検査実施料 : 50点
 検査判断料 : 150点 (微生物学的検査)
 所要日数 : 2～3日
 基準値 : (－)

検査項目 : 抗酸菌分離培養 (小川培地法)
 検査材料 : 喀痰、他
 容器番号 : 34又は各材料別専用容器
 保存方法 : 冷蔵保存
 検査実施料 : 210点
 検査判断料 : 150点 (微生物学的検査)
 所要日数 : 4～8週
 基準値 : (－)

検査項目 : 結核菌群核酸検出 (PCR-TB)
 検査材料 : 喀痰、他
 容器番号 : 34又は各材料別専用容器
 保存方法 : 冷蔵保存
 検査実施料 : 410点
 検査判断料 : 150点 (微生物学的検査)
 所要日数 : 2～4日
 基準値 : (－)

検査項目 : クオンティフェロン (QFT)
 検査材料 : 全血0.8～1.2mL
 容器番号 : 59
 保存方法 : 17～27℃
 検査実施料 : 630点
 検査判断料 : 150点 (免疫学的検査)
 所要日数 : 3～15日
 基準値 : (－)

※予約検査のため、必ず弊社までご連絡下さい。

結核予防に関するリーフレットは下記URLよりご覧ください。
<http://www.keihin.gr.jp/image/kml-pdf/kekaku2012.pdf>

3 検査項目情報：シスタチンC

モダンメディア 2006年 52刊 4号 より抜粋

【シスタチンCとは】
シスタチンCは分子量13kDaの低分子蛋白です。生体内では一定の割合で産生され、性差や年齢、腎前性の影響は受けないと言われております。
腎系球体で自由にろ過された後、近位尿細管で再吸収され分解されます。血中シスタチンC濃度はGFR（糸球体ろ過量）にほぼ依存しておりますので、GFRマーカーとして有用です。

- 【シスタチンCの特徴】
- 1、筋肉量や悪性腫瘍等の影響を受けない為、腎機能をより正確に評価します。
 - 2、年齢や性別の影響も受けない為、腎機能をより正確に評価します。
 - 3、分子量はクレアチニンよりも約100倍大きい為、腎障害の初期でも血中濃度が上昇しやすく、腎機能障害の早期発見に有用です。

【その他】
CKDガイドライン2012年度版が改訂され、[腎機能評価法]の箇所にてシスタチンCによる糸球体ろ過量（GFR）推算式が追加となりました。

検査項目	:	シスタチンC
検体量	:	血清0.3mL
容器番号	:	1
保存方法	:	冷蔵保存
検査実施料	:	130点
検査判断料	:	144点（生化学的検査I）
所要日数	:	3～4日
基準値	:	0.50～0.90mg/dL

4 弊社ホームページ トピックスページについて

弊社ホームページには時節により流行する病気に対する検査項目や、話題となっている検査に関する資料などをご紹介しますためトピックスページを設けております。

現在は「便でわかるピロリ検査」と題して「便中ヘリコバクターピロリ抗原検査」についての情報を掲載しております。
この他にも過去に掲載していた情報も閲覧可能となっておりますので、是非一度お立ち寄りください。

トピックスページは下記URLよりご覧ください。
<http://www.kml-net.co.jp/topix.htm>

■ □ = = = = =



最後までお読み頂きまして有り難う御座いました。

編集／発行 <http://www.kml-net.co.jp/>
株式会社 京浜予防医学研究所
〒211-0042 神奈川県川崎市中原区下新城1-13-15

= = = = = □ ■